

第16回惑星探査データ解析実習会を終えて

出村 裕英¹, 平田 成¹, 本田 親寿¹, 大竹 真紀子¹, 小川 佳子¹, 山田 竜平¹,
鈴木 崇正¹, 月惑星探査データ解析実習会世話人一同

(要旨) 2024年2月27日から3月1日までで行われた第16回惑星探査データ解析実習会の内容を報告します。今回のテーマは「PDS Analyst's Notebookと会津大学・月火星箱庭構想によるローバ走行トライアル体験」の二本立てでした。前半はNASA/PDS Geosciences Node Associate DirectorのThomas Stein講師を会津大学にお招きしてPDS Analyst's Notebookについて解析者側と開発者側の両方について学びました。後半は第十四回に実施した月面ローバ探査のためのSLAM体験を雛形にして福島県南相馬市のロボットテストフィールド福島においてローバ走行トライアルを体験しました。オンラインによる参加者も交えてのハイブリッド形式で開催されました。



図1: Stein講師が紹介したAnalysts' Notebookが生まれたきっかけとなった実験風景。

第16回惑星探査データ解析実習会は、以下の通り2025年2月27日～28日の前半2日と2月29日～3月1日の後半2日、合計四日間の日程で開催されました。ハイブリッド開催になったこともあり、全国の大学・研

究機関に所属する、学部学生から大学院生、ポスドク、シニアまで幅広い世代の参加者がありました。参加人数は2/27 12名(4機関)、2/28 12名(4機関)、2/29 31名(12機関)、3/1 25名(7機関)、全日程で延べ80名(27機関)となり、前年の過去最大の参加規模だった79名31機関を上回りました。

1. 会津大学コンピュータ理工学部・宇宙情報科学研究センター (ARC-Space)

前半開催日程:2024年2月27日～2月28日

前半開催場所:会津大学+リモート(ハイブリッド形式)

前半テーマ:Lecturer of PDS Analyst's Notebook

後半開催日程:2024年2月29日～3月1日

後半開催場所:福島ロボットテストフィールド+リモート(ハイブリッド形式)

後半テーマ:月火星箱庭構想によるローバ走行トライアル体験

講師・世話人:Thomas Stein(NASA/PDS Geosciences Node Associate Director), 出村 裕英, 平田 成, 本田 親寿, 大竹 真紀子, 小川 佳子, 山田 竜平, 鈴木 崇正(会津大学)

主催:日本惑星科学会惑星探査育英会, 会津大学 ARC-Space

後援:日本惑星科学会, 神戸大学CPS



図2: 前半パートの集合写真。

今回の実習会の実施にあたって、前半については、会津大学ARC-Space(文科省共同利用・共同研究拠点:共同利用・共同研究システム形成事業～特色ある共同利用・共同研究拠点支援プログラム～(月惑星探査アーカイブサイエンス拠点)機能強化支援(JPMXP0723830458)助成対象)の支援を受けました。また、日本惑星科学会からの助成が参加者の旅費支援の原資となりました。後半については、宇宙航空科学技術推進委託費「月火星箱庭教育プログラムによる宇宙情報系人材の育成基盤構築」(代表:大竹真紀子)等の一環で行われました。関係各位に感謝の意を表します。



図3: 後半パート、ローバ走行トライアルの看板。

著者紹介

出村 裕英



会津大学宇宙情報科学研究センター教授・センター長。惑星科学会を母体学協会とする文科省共同利用・共同研究拠点「月惑星探査アーカイブサイエンス拠点」の長。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。旧NASDA宇宙開発特別研究

員を経て、2002年11月より現職。専門は惑星科学や探査理工学と情報科学が融合した月惑星探査アーカイブデータサイエンス。惑星科学会のほか、IAU, The Meteoritical Society, 地球惑星科学連合, リモートセンシング学会, 測地学会, 情報地質学会, 東京地学協会, 情報処理学会に所属。